

## 第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

日 時	平成25年2月13日(水) 14:00~16:30
会 場	市役所本庁舎2階会議室
出席委員	天羽 浩委員、澤井将美委員、鈴木聡士委員、湯川恵子委員、桂 裕章委員
欠席委員	なし
市出席者	岩泉功一企画財政部長 【政策調整課】川村裕樹課長、志村 敦主査、河合真実主任 【行政推進課】川口昭広課長、大原秀紀主査、杉山正一主査

### 1. 開会

「委員の過半数が出席していることから、委員会が成立していること」を確認した。

### 2. 会議録署名委員の選出

委員長の指名により、澤井委員を第3回推進計画委員会会議録の署名委員としたい旨提案があり、了承された。

### 3. 連絡事項

【連絡事項】委員から提出のあった提言シートに対する回答について事務局から、資料に沿って説明。  
事前に委員から提出されていた質疑に対し、回答を提示した。

### 4. 議事

#### 【議案1】子育て支援・人づくりプロジェクトについて

事務局から、検討資料、配布資料について説明した後、質疑、意見交換を行った。  
各委員からの意見を受け、提言書案を作成した。

○委員長 まず、子育て支援・人づくりプロジェクトに関連する事業についての資料から質疑があればお願いしたい。

○A委員 資料の中で、子育て支援・人づくりプロジェクトに関連する事業は、19部局で128事業があるが、その中で類似するような事業がかなり散見される。前回の会議では、それを全て整理、統合するのは非常に難しいという話だったが、やはり事業の効率化を図る、あるいは効果的な予算の使い方等を考えるといった場合には、見直しを行った上で、プロジェクト事業として予算も傾斜配分して、しっかりやっていくという取り組みの姿勢がなければならないと思った。また、プロジェクト事業の中で新規事業が4件しかないが、プロジェクト事業ということで、この4件を新規として策定させたのかを確認したい。予算は、

## 第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

---

ハード面を考慮しても、22年度決算と25年度予算あるいは24年度予算を対比すると、1億弱ぐらいしか増えていない。逆にプロジェクト以外の事業で、新規の事業が18事業あるのだが、プロジェクト事業を選ぶ基準は最初から設定されて進められてきたのか。

○事務局 重点プロジェクトの位置づけの考え方として、23年度にスタートした時には、今まで実施している事業も含めて、できるだけ特徴的なものについてまとめたが、重点プロジェクトに載るべき明確な基準はなかった。推進していく上で、今お話があったように、類似している事業を整理・統合する等、見直した方が効率的だという観点は非常に大事だと思っている。メリハリをつけることによって、重点プロジェクトの中でさらに特徴的な事業の位置づけができると思い、プロセスに限らず大事な視点だと思うので、提言も含めて考えて行きたい。推進計画をつくる上では、重点プロジェクトに基づいて、さらにそれを推進するべきとして担当部局等に投げかけながら事業を行っており、予算との兼ね合いもありつつ意識して進めているが、結果的に事業件数4件という物足りない件数になっており、これについても重点プロジェクトとして出している以上、メリハリをつけながら進めていきたいと思っているので、来年度以降も大事な視点と考えている。

○A委員 これについては提言をしたという事でお願ひしたい。

○委員長 提言書の中に、細かく書くというよりは、類似した事業をもっと効率的に、今後積極的にやっていくということを提言する形でまとめていきたいと思う。  
次に幼稚園・保育園の経費比較資料について、他市と比べた時に、北広島がどのレベルにあるのかという位置づけの資料だが、単純に順位や額の比較ということは、市によって入っている項目と入っていない項目があるので、この資料だけで簡単に、少ないから増やすという話にはならないと思う。

○B委員 幼稚園・保育園の比較について、保育園は国の基準で大体バランスがとれると思うが、北広島市には公立幼稚園がないので、特に人件費等の経費面で、保育園と幼稚園の両方を持っている自治体との差が出るというのは承知した。公立幼稚園を今から設置したほうが良いということではないが、やはり市は市民からの税金で運営しているので、幼稚園の経営がない分、今後色々な形で、市の財源を子育て支援に資するということがあってもいいという観点を、抽象的だが入れていただきたいと思う。

## 第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

- 委員長 単純にこの順位だけの話ではないと思うが、例えば投資額だけ高くすればいいという量の話だけではなく、どう効果的な事業にしていくかという質の話があるので、色々判断が難しい。資料の4ページの青いグラフで、各市の補助事業にかかる比較において、突出して石狩市が高いが、理由を教えてください。
- 事務局 別な団体で調査したものを拝借した資料なので、石狩市についての分析はできていない。現在、子ども子育て関連法案の関係で、子ども子育て推進会議という、厚生労働省からの事業計画等の策定を当市も含め全国の自治体で取り組む流れもあり、ニーズ等の調査と、併せて民業圧迫にならないような対応等を担当課でも検討しているという事を補足させていただきたい。
- また、資料の3枚目で、②保護者向け事業の、北広島市の幼稚園就園奨励費のI欄その他負担軽減の市独自措置が空白になっているが、3歳児未満の幼稚園への就園奨励制度を行っており、数字の書き漏れがあるということと、北広島では、もし私立の幼稚園を市有地等に建てたい場合等には、優先的に無償で用地をお貸ししているという実態もあるので、委員長が言われたように、単純に数字だけではわからない部分があるということをご理解いただきたい。
- 委員長 何を含めるか含めないかで順位は変わってしまうため、一概にこれで何位だからどうという話ではないが、やはり資料を見ると理解しやすかったのも、こういった部分を検討していければと思う。情報収集をしながら積極的に効果的な事業や予算配分等を進め、人づくりを進めていくという姿勢もあっても良いと感じ、そのあたりを提言書の中にどう入れるかについては、また検討させていただきたい。
- 次に、図書館への指定管理者の導入についての資料だが、一般的なメリット、デメリットを示したということだが、これについて質疑をお願いしたい。
- C委員 前回質問した際に、指定管理者については現在具体的に検討していないという説明だったが、そうすると提言しても対象にはならないという結論でよいか。
- 事務局 効率的・効果的に色々な資源を使って、より充実した図書館サービスを行うという提言の1つとして指定管理者という方式があり、現在当市で具体的な検討はしていないが、今後検討していく事もあるかと思う。しかし、今段階で、提言とすべきとなった時には、まだ動きが取りにくいということが現実である。しかし、個々の計画ではなく全庁的なスタンスに立つと、提言として出されていると、行革としてのサポートという意味では成り立つとも考えられる。

## 第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

---

- B委員 図書館は一部を民間委託しているが、それは指定管理者制度とはどういう差異があるのか。
- 事務局 指定管理者制度というのは、公の施設の管理・運営を民間が代行できるという制度だが、当市の図書館は現在直営で運営している。ただし窓口、貸し出し等業務の一部について民間委託しており、それによって、開館時間や年間の開館日数が増えたというメリットは出ている。
- B委員 民間のサービスが非常に良いと感じており、評判も良いようだが、やはり経費的にも大分違うのか。
- 事務局 行革の絡みで、図書館窓口民間委託の費用対効果を計算したが、民間委託することによって経費が削減されたとは出なかった。行革というと、経費を下げるイメージだが、市民サービスが上がったという視点で整理している。
- 委員長 指定管理者制度も一長一短であり、一概に入れるべき入れざるべきという判断は簡単にはつかない部分はあると思う。
- 事務局 前回この提言書案作成の際に、内部からの議論も含め、指定管理が良いかは別として、今後の運営体制の見直しをしてはどうかという提言があっても良いという考えから入れたが、前回、メリット、デメリットもわからないのに提言をしても良いのかという意見があり調べた結果、端的な資料しか作成できなかった。この辺も踏まえて、時期尚早だから落とすのか、また提言として検討してもらいたいので残すのか整理をお願いしたい。
- 委員長 後ほど、また議論したい。次に、子育て支援・人づくりプロジェクト経年比較シートについて質疑を進めたい。
- A委員 私が求めた資料だが、何を目的として求めたかということ、平成22年度以前の事業の中で、重点プロジェクト事業として選定された事業が、どのぐらいの予算付けをされているのか、プロジェクト事業として新たに策定したものがどれだけ予算をつけて執行をされているかの確認と、プロジェクト事業に入れることによって、経費は横並びでもソフト面で充実させたところを見せていただきたいと思い、資料を提出していただいたのだが、そのような判断をして良いか確認を含めて、教えていただきたい。

## 第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

○事務局 重点プロジェクトを推進するために各部局にお願いして事業を策定し、庁内全体で議論しているが、特にこの部分について重点的にこれくらいの予算を集約的に投入していくということや、効率性を図った類似する事業の統合も含めてより良いものをつくっていくという姿勢は、この資料から読みきれないと思うし、現在本当にそこまで強くは言えていないと思う。A委員がおっしゃったように、重点プロジェクトと掲げている以上、推進する体制や意気込みというものがあるかということに関しては、事務局としても同じ意見であり、新年度も進めていきたいと思う。

○A委員 重点プロジェクト事業として、北広島市にとって他の自治体にはない極めてユニークというか特色性のある事業というのを期待していたのだが、大体がどの自治体にもあるような、横並び的な事業だと捉えている。北広島市の将来人口を 61,500 人ということで設定しているが、到達するための具体的な施策というのが全く見られない。子育て支援を厚くすることによって、安心して子どもを産めるという環境になるのかもしれないが、極めて間接的であるという捉え方もできるので、そういう意味では北広島市だからこそという事業というものをつくり出していくことも必要かと思った。

○委員長 額だけ見ると若干増えているくらいで大体横並びだと思うが、やはり特色あるものをどう進めていくかという時には、なかなか簡単ではないと思う。しかし、こういった資料から、大体の状況が理解できたとも思う。最初の指摘とかぶる部分もあるが、積極的に検討するという姿勢ということで、提言書に入れていけると思う。

ひとまず全ての資料について意見をいただいたが、これに基づいて提言書の案を具体的に作成していきたいと思う。

(事務局から説明)

○委員長 まず1ページ目と2ページ目の「はじめに」「検討テーマ」「提言書について」の構成等について、意見等お伺いします。

○A委員 「はじめに」の4段目で、夢を語る場というのは外した方がよい。この委員会は夢を語る場ではないと思う。

○委員長 夢を語るという部分を消したほうがよいとなると文言としては、現状確認、検証の場にするという意見が出たが、それでよろしいか。

## 第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

---

(全員了承)

○C委員 この委員会は、条例に基づいて設置されているという理解でよろしいか。それであれば、策定、進行管理及び評価というのがここで審議する内容と謳っているので、条例通りに載せた方が良いと思う。

○事務局 前段の3行目に条例に沿って記載してあり、その次に噛み砕いた書き方になっているので、そこは整理して統一をとる。

○委員長 次に、3ページ目4ページ目に進んで、安心できる子育てについてのご意見をいただきたい。

○D委員 4ページの今後に向けた提言の上から4行目に、「子育てニーズは共働きの家庭支援や子育てする母親の交流」とあるが、意図はそのとおりで母親にも交流はしてほしいが、育児は母親だけのものではなく、性別に関わらず父親同士の交流や、父親と母親の交流も必要だと思うので、配慮していただきたい。

○委員長 私の父親も今「いくじい(育翁)」をしており、そういった情報交換も必要ならば、「母」をとって「親」とした方が良いのかもしれない。

○D委員 「父母」と入れた場合は、母親しかいない世帯、父親しかいない世帯があるので、良い言い回しはあると思うので、事務局で調べていただきたい。要するに子供を取り巻く様々な人たちが、子どもを中心として取り巻きつつ交流ができるような、という意図が載ると良いと思う。

○委員長 子育てする保護者や家族など関わる方全てということを連想できるような言葉にするという主旨で考えたいと思う。

○D委員 4ページの「将来教員になるような方々」というのが気になる。教育に将来携わる人というような表現であれば良いと思うが、単純に教員という仕事に限定してしまうと、若い方で将来教員というと、要するに教育大学に通っている大学生かという話になってしまうと思うので、言い回しを検討いただきたい。

○事務局 具体的な例だけを挙げると特化されてしまうので、今のように教育に関わる人といった幅広い方々にというニュアンスで、整理させていただきたい。

## 第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

---

- C委員 児童館について、札幌市の小学校だが、自分の子どもも小学校低学年の時、5時～6時くらいまで学校で預かるという児童館のようなところに行っており、両親が6時くらいまで家にいない場合、そこに預けていたほうが安心ということで、周りでもかなりニーズはあったと思うが、子ども達はあまりそこに行きたがらず、自分の家に居たいという子どもが多かった。だから、何か問題があるのかと考えていたのだが、数を増やして解消される問題ではないと思うので、そういった提言が出来るのであれば入れていただきたい。札幌市と北広島市では違うかもしれないが、何か情報はあるか。数はあるが余り利用されていないというのが実態ではないかと思っているが。
- 事務局 当市の小学校3年生までを預かる学童保育という事業は、4月の募集時には、定員以上の応募があるが、7月くらいから減り始め、10月くらいには大体半分位に減る。これは北広島市近辺特有かもしれないが、小学校3年生くらいになると、塾通いや習い事、スポーツ少年団に入る等で、夏休み明け以降に減る傾向はある。以前、夏休み期間中に6年生まで拡大してほしいという要望があったが、実際拡大してもほとんど集まらず、親が心配しているよりも、子どもは親がいない間自由に過ごせるということもあるようで、文科省が今後6年生まで増やす予定だが、どこまで増えるか非常に疑問であり、担当部局でも悩んでいる。
- C委員 基本的に親と子どものニーズが合っていないのだと思うが、子どものニーズがわからないので、例えば子どもにアンケートをとって、その結果によって対応するという事も可能であれば、検討する価値はあると思う。その結果が例えばゲームをやりたい等であれば恐らく対応できないので、その場合はこういった事業は必要性そのものを考えるべきではないかと思う。
- 事務局 大曲地区で今年度から放課後子ども教室という、小学校の授業が終わってから何時間か学習中心の預かり事業を行ったが、親としては学校でもっと勉強できるということで、需要は非常に高かった。放課後児童対策については、昔と違って考えていかなければならない部分はこれから相当出てくると思う。
- 委員長 運営システムをもっと効率的にということと、学童の要望の吸い上げを併せてというような一文を加えると、そういう方向で検討してはどうかという提言になるかと思うので、加えていきたい。よりよいサービスをするために、しっかり検討をすべきという方向で加えたいと思う。

## 第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

---

- A委員 5つ目の文言で、「医療費等のかからないようにする」というところを、子育て家庭の「医療費等費用を支援する」という表現に直したほうが良いと思う。
- 委員長 ①安心できる子育てについては、細かい文言については後ほど検討するとして、ご意見いただいたように修正したいと思う。続いて、②健やかな子どもの教育についての意見集約をしたい。
- A委員 6ページの学校の図書整備についての提言2つを、1つにまとめた方がよいと思う。
- 委員長 内容的には両方図書整備の話なので、まとめて1つの提言に集約したいと思う。
- C委員 学校図書の実態として、資料の経過シートで年間1,000万円位の予算が計上されているが、これは概ね図書の購入費という理解でよいか。
- 事務局 1校あたり30~40万円が購入費で、それ以外はシステムの管理運営経費である。
- C委員 自分の子どもは、ほとんど学校から本を借りてきたことがなく、いつもインターネットで本を買っている。児童書ではなく大人向けの小説を読んでいることが多いためか、学校に読みたい本が無いということだが、学校はどういう本を買っているのか。また、図書館自体の活用度合が実際どの程度かわからないが、可能であれば、子どもの買うような本を置いてもらえると一番良いと思う。
- 事務局 文部科学省が推奨するリストにもとづいて買われていたということがあるが、それが今、必ずしもニーズに一致していないという部分もあると思うので、今のご意見も1つの視点として大事だと思う。
- C委員 それであれば、そういった提言は可能か。文部科学省の指定があるので変えられないということであれば、提言しても無駄だと思うが。
- 事務局 学校の図書を見ると、いわゆる選んだ、選ばれた本がただ並んでいるだけで、子どもたちのニーズは取りきれていないと思うが、図書のあり方について、ニーズも含めて充実した図書をと提言は良いと思う。欲しい本が手に入るような体制をつくるべきと言うと、好み等があるので難しいと思うが、例えば何

## 第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

---

年かに一回調査するといったことは必要と思っている。

○委員長 そうなると「学校間格差などの分析」とは、学校によって貸出数が多い少ないという分析と、もう1つは児童・生徒がどんな本を読みたいのかということも分析すると、最後にある「読書機会の創出」に繋がると思うので、学校間格差の分析やニーズ把握等の分析などを通じて読書機会の創出を図るべきであるという様に、そういったマーケティング的ことをしてみてもどうかという提言として、まとめられると思う。詳しい文言については後ほど検討するが、加えたいと思う。

○A委員 外部評価委員会で指摘したが、ある中学校は貸出し冊数が極端に少ないが、図書整備の問題ではなく、その学校の生徒に対する図書への意識の高揚等に問題があるという捉え方をしており、外部評価委員会でもほぼ近い提言をしている。同じような提言をこの委員会でするのは構わないと思うが、図書整備が充実していないのではなく、読書機会の創出に対する工夫など、学校そのものに問題があるのではと感じている。

○B委員 特色ある学校づくりや、魅力のある学校教育ということは非常に大事だと思うので、ぜひ入れていただきたい。小中一貫校の開設、英会話というように具体的な文言が盛り込まれているが、実際に総合計画の期間内にできれば良いと思うが、どのくらい具体的に考えているのか。

○事務局 教育委員会で、こういったことも視野に入れてはいるが、具体的な議論はまだ準備できていない。ただ、総合計画で施策の中に盛り込んでおり、ここで意見が出れば、進んでいく可能性はある。また、総合計画の中では新しい教育システムについて謳っているが、具体的に学校の開設となって来ると、システムを検討した後の話になり、2学期制や、小中一貫教育の検討についてこの10年間に進めたいということは出しているのだから、言葉の統一を図り、文言整理をさせていただきたい。

○委員長 委員としての提言ということで、進めていきたいということであれば、小中一貫校の開設まで言ってしまった方が、この委員会としての姿勢を示せるという気もするので、このままでもよいと思う。

○B委員 英語教育は重要であり、小学校で取り上げられたり、秋田の私立大学が全て英語で授業をして、就職率の高さを評価されたりしているようだが、例えば英語での教育を取り入れれば、全国一律の義務教育でやってきた中、ユニークな

## 第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

もので人を引きつけるという視点が総合計画の中にあっても良いと思い、英語を話すこと自体が、これから有意義な人材をつくっていくと期待しているので、要望したい。

○委員長 どう特色をもっていかと言う部分で、具体的なメッセージがこもっていると思うので、ぜひ検討いただければと思う。

○D委員 委員長も同意をされていたので、特に異議を唱えるつもりはないが、小中一貫教育と英会話と特定スポーツを重点化していくというのは、レベルの違う話ではないかと思い、ここに一緒に並ぶのは違和感がある。夢物語も大事だと思うが、単純に小中一貫校を作ったからといって、どういうふうに接続して、教育をして、どんな人材を育てたいのかと言う話ができるかというところは疑問である。それをした方が面白い、北広島市の特色として打ち出せるのであれば、将来像として描くことは大事だと思うが、ちょっと一足飛び過ぎるのではという危惧がある。

図書の話にもどり、読書する機会をつくるといった、学校や周りの取り組みが重要だという議論がされたが、具体的提案の3番目、「図書書籍のより一層の充実のため新規に購入するのみではなく、市民からの書籍の寄附を受けつけて活用していく」の部分で、子どもたちが読みたい本が寄附されれば良いが、本を捨てるのはもったいないので学校に寄附しようという流れで図書館や学校に本がやってきた時に、子供たちが読みたい本かどうかというところがあり、書籍の寄附を活用していくというところはもう少し工夫や議論が必要で、どちらかという読書機会をどうつくるかに提言を集約した方が良いと思う。あるいは、家に眠っている本を交換する場を提供する等、本が生き返っていく形をつくる方が面白いと思う。

○A委員 私が前回提案したのは、大人の視点だけではなく、絵本から始まって全てについてであって、私自身も本を200冊ほど、市の図書館に寄附したいと話したところ、寄附はいつでも受け、その中から、極めて平準的、普遍的な図書を選別して受け入れ、それ以外の図書館としては不要だというものがあれば、販売するという形もあるので、基本的に受け入れると話していた。ただそれが、市民に浸透していないので、周知を図って、図書館で受けとめていける形を取っていかなければならないという意味で、こういう要望、提言をした。

○事務局 前回学校図書の関係事業から派生した提案だったが、いきいきとした人づくりにも図書サービスの提供という事業があり、学校という部分が薄いのであれ

## 第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

---

ば、いきいきとした人づくりに移しても構わないと思う。

○委員長 図書館のシステムで、「2 健やかな子どもの教育」というよりは、「3 いきいきとした人づくり」の方が適するという印象もあるが、3 でよいか。

○事務局 どちらにも入るような形で図書関係の意見を羅列しており、単発で見ると色々クロスしている所があるので、ニュアンスも含めて整理したい。

○委員長 小中一貫校の開設までというのが、レベル的に違うのではという意見で、事務局も同じような懸念があった発言だと思ったが、どこまで表現するかについてはお任せいただいて、整理させていただきたい。

○B委員 以前問題になったのだが、司書の資格を持ってない教員がいて、学校図書の運営がうまくいかないということが新聞に載っていた気がする。3 点ほど図書館の関係で提案しており、ある程度グルーピングされるのか、いきいきとした人づくりの図書館サービスの提供との絡みもあると思うが、人的関与ということも学校図書の関係で入れていただきたい。

○A委員 学校図書利用の図書司書の設置については、総合計画では全小中学校に配置するとなっていたが、外部評価委員会で2年前に聞くと、1校にしか配置されていなかったということがあり、できるだけ早期に配置するよう改善すべきという提言をしたが、既に外部評価委員会で提言しているので、あえて入れなくて良いのか、それとも、それはそれとして提言した方が良いのか。学校間格差の図書の貸出し数等も、図書司書を置いていけば、司書がそれなりに内容を分析して、その上で改善していくような形をとれるのかという捉え方もしている。

○委員長 どういうニーズがあるか精査する必要があるという部分と運用をどうしていくかという部分が、この話題に関わってくると思うので、外部評価委員会で提言したが、もしそれがまだ実現しておらず、かつ、この委員会として推進すべきだという意見になれば、積極的に進めるという提言を入れること自体は問題ないと思うので、加えたいと思う。

次の生き生きとした人づくりに進める。

○D委員 具体的提言の1番目と4番目だが、「高齢者や退職など時間の余裕がある方」は、必ずしも高齢者や退職された方にこだわる必要がないと思う。様々な時間がある方がいるし、能力のある方ほど仕事をもっていても自分の時間を楽しん

## 第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

---

でいる方も多いので、能力あるいは持っているスキルを提供していただける方という形のほうが良いと思う。また、4番目で、「女性の」と前回話したとおりの表現で書かれているが、逆に男性差別という見方をされる可能性もあり、女性だけをとりたてて言うべきか迷っている。男女共同参画社会と言われるようになっていたので、男女両方と言うべきか、あえてどちらかという社会的に弱者だった女性ということを経験するべきかを、検討いただきたい。

○A委員　いきいきとした人づくりという視点でいくと、幅広く捉えて良いと思う。当初、女性の立場で特に女性を強調されたということで、こういった表現をされたと思うが、「広く市民に」という表現でも良いと思う。事務局で担当のセクションと話して、適切な表現でお願いしたい。

○事務局　女性らしさ、男性らしさは最近使わなくなってきているので調整する。

○委員長　今のような趣旨で少し広げながら、かつ配慮した表現にしたいと思う。女性の前の話に戻るが、「高齢者や退職など時間の余裕がある方」の部分は、「高齢者や退職など」を抜いてしまって単純に「時間の余裕のある方」だけでよいと思うので、削除したい。

○C委員　前の2つは子供向けの事業という事で理解できるが、3番目は、文言は外しても基本的には高齢者や女性のための事業という理解でよいか。生涯学習というのは、例えば実際年金をもらっている世代と話す、学習より仕事の要望の方がかなり多いと実感しており、こういったニーズはそんなにあるのかと、漠然と疑問に思っている。50代後半から60代の方はまだ働ける方が多く、ニーズがあるのかという疑問があり、この提言がぴんとこなかった。そもそも市で対象は具体的にどういう方を想定しているのか。

○事務局　基本的には全ての市民が対象であり、いわゆる社会教育分野の位置づけとして、場の提供、機会の確保を含めて施策を行っている。興味がある・ないも含めて、非常に意見の分かれるところだとは思いますが、いわゆる心の豊かさも含めて市として提供していくということであり、例えばスポーツの関係等、子どもたちの活動も入っているため、全ての世代が対象と思って設定している。

○委員長　今の質問については意見整理シートの11で、色々具体的な事例もあるということだが、ニーズとしては多いのか。

## 第4回北広島市総合計画推進委員会 会議録

---

- 事務局 当市は生涯学習が活発な方であり、サークルの活動や設立の話も、よくいただいている。
- C委員 7ページの事業の中で、図書館サービスというのは確かに全ての世代という事で理解できるが、例えば、生涯学習市民活動支援事業というのは、具体的にどのような年齢層を対象にしているのか。
- 事務局 市民グループの方が企画する事業への支援といった補助事業で、具体的な例を挙げると、去年はコンサートや講演会、バレエ団体や民謡の発表会、音楽療法の講座や、もちつき大会が行われた。
- C委員 本当に高齢者というわけではなく、時間のある市民の方達が等しく対象だという事で理解した。
- 委員長 次に9ページ目の経過の過程と名簿について確認をさせていただきたい。
- D委員 中身ではなく委員会の名簿の並び順で、50音順にすると、天羽委員、桂委員、湯川委員の順番かと思う。何か意味があるのであれば、このままで結構だが。
- 委員長 50音順にしたいと思う。他になければ、以上で終了とし、いくつか宿題となった分と、検討の文言等を盛り込んだものを、提言書の完成版として、最終的に確認して、市に提出したいと思う。
- 事務局 全体について、先ほどA委員からお話のあった全体的な視点、いわゆる類似統合するといった視点についても、前段で全体にかかるようなかたちで文言整理をさせていただいて、委員長と精査させていただくということを確認いただきたい。

### 5. その他（次回開催日程についてなど）

次回の推進委員会は、新年度の4月以降に開催することとした。

事務局で今回の意見をまとめ文言を整理し、委員長との打ち合わせ精査後に、提言書を完成させることとした。

### 6. 閉会

会議録署名委員

---